

## 江南区子どもを犯罪から守る安心・安全対策連携会議

日時：平成30年11月28日（水）午前10時～

会場：江南区役所 3階 302会議室

（藤野区民生活課長）

おはようございます。5分ほどまだ時間が早いのですが、今日出席いただける方は皆さんおそろいになられましたので、これから始めたいと思います。

本日はお忙しい中、ご出席くださいます本当にありがとうございます。前回、第1回目会議ということで、9月7日に開催いたしました。本日は2回目ということであります。本日、司会進行を務めさせていただきます江南区民生活課の藤野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、次第に入ります前に、今回の会議の開催のお知らせの書類をお送りしたときに、名簿と一緒に同封させていただきました。そここのところに、お二人新たにメンバーとして加わっていただいた方を示しました。具体的には、それぞれの学区の交通安全推進協議会というのがあるのですが、そちらのほうからお一人、具体的には亀田東小学校区の推進協議会の代表を務めて下さっている方に加わっていただきました、齋藤真人さん。それからもうひと方、育成協の関係も加わったらどうだという意見も第1回目のときにいただきましたので、こちらでいろいろと調整をしまして、山倉茂美さんから加わっていただくことになりました。実は、江南区は五つの地区でそれぞれ育成協、協議会を構成しております。その中から、新潟市は8区ありますけれども、新潟市全体の育成協議会を構成するメンバーに各区から二人ずつ参加していただいています。江南区からも二人参加していただいているのですが、この山倉さんともうひと方いるのですが、山倉さんは新潟市全体の育成協の中の副会長もやっていたらというので、山倉さんにこの会議に参加していただきたいということで了解をいただきました。残念ながら、お二方は本日都合によりまして欠席ということですが、今後の会議の際にはこの会議に加わっていただくということになりましたので、ご承知置きいただければと思います。総勢16名の会議となりまして、本日欠席される方、連絡をいただきました4名の方が都合によりまして欠席ということ、本日は12名の出席をいただきました。

それでは、本日の次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、お配りしました資料の確認なのですが、それぞれホチキス止めしたものを資料1、資料2、資料3と3種類お配りしております。不足分があるようでしたらお知らせいただければと思っております。資料1についてですけれども、上のほうに四角囲みで「会議終了後回収」と表示しております。実は、皆さんご存じのとおり、6月から9月にかけて各通学路の総点検を全国で実施いたしました。その結果を、今集計が終わって12月中には文部科学省から全国の状況の公表があるやに聞いております。その公表を受けて、新潟市教育委員会も公表するという予定だそうです。その公表の前にこの内容が広く外部に出ているというのは、やっぱりいろいろと問

題があるということで、本日の時点ではまだ非公表のデータということもありまして、申し訳ないのですが会議が終わりましたら机上に残したまま、こちらで回収させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、資料1に基づきまして意見交換をお願いしたいと思うのですが、今ほど説明いたしましたとおり、全国で一斉に行われた通学路の安全点検の江南区における10校分の集計結果と、それぞれの学校でその作業に基づいて安全マップというものを作成しました。まだ未完成のところもあるのですが、マップについては途中の、作成中の状況のものもあるということをご承知置きいただければと思います。

数字が並んでいる表の見方ですけれども、これが1から9まで、危険だと思われる危険な内容を九つここに列記してあります。これは文部科学省が全国に指示を出したときに、今、こういう区分で危険な箇所を分類せよということで、このくくりになっています。それぞれの小学校区ごとで点検していただいた結果の件数をここに表示してあります。ちょっとわかりにくい内容が①と④、①は「子どもが一人になったときに周囲の目が少ない」、それから④については、特にこれはわかりにくいかもしれませんが、「地域環境の管理に課題がある」となっております。下のところに、注釈として文部科学省が示した解説を参考までに載せてあります。1番については、それなりに言葉どおりかと思うのですが、「人とか車の通りが少なく、道路から見える建物の窓が少ない」とか、「子どもを見守るような目が少ない」「ほとんどない」という危険な場所を①番として挙げております。それから、④番の「地域環境の管理に課題がある」についてなのですが、これは「落書きとかゴミが道路に散乱している」とか、「公共物が破損したままになっている」とか、ひいてはそれらが地域の皆さんなりが、地域のことに関心があまりないのではないかと思われてしまう、結果的には悪意を持った人が「あっ、この地域だったら誰も見てないし、悪い事をしてもらわないな」なんていう、そんな環境のことを④として挙げています。それぞれ危険だと思われる箇所について、現地確認を皆さんでしていただいた上でこの項目に分類しているのですが、1カ所の場所について一つの項目だけということではなく、一つの場所だけでも①にも該当するし④にも該当するとかという複数の報告、該当するもの全てにチェックを入れていますので、これがイコール箇所数というわけではないということをご承知の上で見ていただければと思っております。あと、後ろに、ほとんどがA3の資料になっていますけれども、点検と結果に基づいて具体的な場所にその状況を落とし込んだものを10校分ここに綴じてあります。学校によっては、1枚ではなく複数枚にわたっている学校もあるのですが、そういうところについては、代表的なものを1枚だけここに写しを参考までに添付いたしました。このマップ、まさに情報共有をしていくということを想定しているのですが、どういう範囲でこのマップを共有するかという辺りも、具体的な話というのがまだ伝わってきませんので、今後どういう範囲に配ることになるのかという辺りは、また把握でき次第お知らせしたいと思っております。

先ほどの件数の一覧表なのですが、江南区の合計ということで一番下のところに書いてあります。圧倒的に①の「周囲の目が少ない」というところが多くなっております。それか

ら、②、③もある意味では①と共通する課題かなという感じもしております。その三つを足すと、もう全体の中のほとんどをこれが占めているということになります。これからこの危険箇所について、どういう対応が必要なのかというのをまさに今検討を進めている最中なのですが、まさにマンパワー、地域の皆さんなり、人間、大人の目が、見守りの目が必要だということにつながっている内容になっております。ということで、この件数の全体なりマップなりをご覧になった上で、今後の対応策を想定しながらということになると思うのですが、皆さまからご意見をいただければと思っております。ここでいただいた意見については、今後われわれ区役所が旗振り役になって、地域の皆さんに協力を求めるとかいろんな取り組みを進めていく中で、今日いただく意見を踏まえながら、地域の皆さんにも理解をいただくといいかたちで考えておりますので、ぜひ、忌憚のない意見を頂戴できればと思っておりますのでよろしくお願いします。

(米山区長)

いいですか。一点、確認なのですが、先ほど言ったその1枚目の表の中で、この件数イコール箇所数ではないと。一つのところに何個か入っているものもあるということなのですが、箇所数的には大体どのくらいかというのわかりますか。

(藤野区民生活課長)

すみません。箇所数は、1枚めぐりでカウントすれば数えられるのですが、今の時点ではすみません、数字は持っていません。

(米山区長)

はい、わかりました。

あと、これは感想なのですが、結構小学校によって作り方というか、突っ込み方がだいぶ違うかなというイメージを持って、大体が交通安全のマップと一緒に作られているところが多いのかなと思いますけれども、中を見ていきますと、相当細かく書いているところもあれば、一つボンというところもあったり、結構ばらつきがあって、それぞれのおそらく地域の実情というか状況に応じて作られているので、その部分はやむを得ないところがあるのかなという気はするのですが、こちら辺は、例えばお互いのマップを見せ合いながら、自分のところはこれが足りないみたいなことをやりとりする機会みたいなものがあつたほうが、よりいいものができるのではないかなと思います。感想ですけども。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。まさに、このマップをどういう人たち、どういう皆さんで共有していただくかというのがこれから決まっていくように聞いておりますので、できるだけ広い範囲で共有するほうが、やはり見守りの目的につながっているのではないかなという気は

します。

(津野小学校長会代表)

では、補足説明になるかと思います。各小学校の取り組みについて説明します。6月、7月にかけて各地域の方から集まっていたいただいて、その中で危険箇所を挙げていただいたのが第1段階です。その次に、夏休みに第1段階で挙げたものをたたき台にして、親子で通学路を確認してもらって危険箇所を挙げてもらったというのが第2段階。第3段階が9月、10月にかけて、もう一度地域の方、それから行政の方、警察の方に入っていたいただいて、各地区を回って対応策を含めて最後挙げていったということになります。ですから、場所の件数的には第1段階を踏まえて第2段階、保護者、子どもの確認で増えている。第3段階、対応も含めて挙げていって、そこで若干防犯カメラ等の話もあったので減っているというところがあります。各地区が各校のマップですから大きく分けて、最初うちもそうなのですが、ほとんどの学校が交通安全のマップがつくられていました。交通安全のマップに今回のものを付け加えたというところ、それから今回のものを踏まえて新しくつくったというところがあります。学校としては、教育委員会の指示で今回の結果を踏まえて、全ての保護者にこの地図を配ることになっています。学校ごとのというのは今のところはないですので、当校はどうするかというと、この結果を保護者に知らせるとともに、マップを新しくつくって新しい1年生、それから地域の方、見守りしてくださっている方に配ろうという今計画になっています。以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。ほかにご意見、コメントがある方は、ぜひ、お願いしたいと思います。

(米山区長)

配るときには、学校から通じて地域の皆さんに配布するみたいな。

(津野小学校長会代表)

そうですね、はい。すべてではないですけども。

(米山区長)

配布するときにはここは配りにくいみたいな話があれば、いくらでも協力しますので、はい。

(藤野区民生活課長)

ちなみに、指名して申し訳ないのですが、実際に普段活動していらっしゃる鈴木さんから見て、鈴木さんのエリアですと亀田西小になるのでしょうか。

(鈴木五月町防犯防火部長)

そうですね。

(藤野区民生活課長)

その件数が今出てきているのですが、具体的な場所について日ごろの活動でどうカバーできそうかななどについてお聞かせください。

(鈴木五月町防犯防火部長)

亀田西は18地区となっておりますが、いつも問題になるのは、四ツ興野の点滅信号です。西小近くのイオンの通りに三差路の信号、特にあそこをよく、いろいろ不審者がいるなどのメールが頻繁に入りますよね。この件数には入っておりませんが、問題があるとなると市民グラウンドの隣にある第1ひまわりですが、一番不審者が出るようですあと、私が今一番懸念しているのは、いつも言うのだけれども、緑町の交差点からずっと中島のほうへ抜ける、カーブした地点、あそこにあずまやがありますけれども、あの辺が一番問題あるのではないかと。旭とか大月とか、中島のほうから来るところ、私はそこら辺りが一番危ないなというのは共有しているんですね。

(藤野区民生活課長)

ちなみに、この西小のマップってすでにもう入手されていらっしゃいましたか。

(鈴木五月町防犯防火部長)

いや。今回の調査したものですか。

(藤野区民生活課長)

はい。

(鈴木五月町防犯防火部長)

いや。まだもらっていませんけれどもね。

(藤野区民生活課長)

そうすると、いずれ入手できたときには、以前からやっている見守り活動にどう反映していくかというのは、また活動している皆さんで検討していくというような流れになるのでしょうか。

(鈴木五月町防犯防火部長)

ええ。検討というよりも、この前、8月ごろでしょうか、亀田育成協議会から帽子を10個もらいました。それを私ら約30人の防犯パトと10時や14時にウォーキングする女性の

方などにわけました。そして今まではほかの町内を回っているかもしれないけれども、そういう方々はうちの町内ではなくてほかを回っているんですね。だから、そうしないで、私は何回も言うのだけれども、うちの町内を回っていただくと大体30分回ると6,000か7,000歩を歩くので、それでも1万歩に足りなかつたら小路に入ったり、こうなっていけば、らくらく1万歩は楽勝なので、とにかくほかも大事かもしれないけれども、まず、自分たちのまちは自分たちで守るというような気持ちを持ってということ。下校パトロール隊は月水金に、小学校からスケジュールをもらって、その時間帯に五月町の交差点から西小、それから西町抜けて行く通りなど四ツ興野と西町と、五月町、あの辺を1週するようなかたちで結構パトロールをやっています。

(藤野区民生活課長)

もしでしたら、地域的な状況によっても対応というのが異なってくると思うのですけれども、住宅地とそうではないところ、1回目の会議のときに小林さんから見守り目という、住宅そのものがなくて、農地の中を延々と歩いてくるようなというお話もいただきました。丸山小、大淵小辺りのこの状況を見て何か今後の活動の参考にさせていただければと思います。1回目のときに、見守り活動についても地域で検討しているというようなお話もいただいたのですけれども、その辺りも含めてご意見をいただければと思いますけれども。

(小林自治協議会会長)

私は、実は大江山地区で居住しているのですけれども、いわゆる丸山小学校、大淵小学校。丸山小学校につきましては、この調査マップ、結果を踏まえて児童に全部配布したという話は伺っています。大淵は確認していません。このマップを見ますと、かなりやっぱり地域差があると思うんですね。どうしても町場とわれわれのような農村地帯とではおのずから違ってくると思いますし、各自治会にやはり頼らなくてはいけないのではないかという気がしていますし、実は、昨日大江山地区全体のあいさつ運動の打ち合わせがあったのですが、このあいさつ運動も実は8年目に入っております。このあいさつ運動自体が地域も含めて、子どもたちも含めて朝晩のあいさつを強化しようということで、これも実は見守りの一貫というかたちで捉えていまして、昨日の話の中で再度各自治会にお願いして、通学、登校の時間、下校の時間、わずかな時間ですので各要所要所に辻立ちしてもらおうということに話し合いしまして、近々全体会議のときに再度申し入れをしようというかたちを取っております。やっぱり、われわれの地区というのは、商店もなくなっていますし、今まであった商店も閉鎖したり、この間もお話したのですけれども、いわゆるこども110番の駆け込む場所が非常に少なくなっているということで、この辺はちょっと危惧しているのですが、この間も申し上げたように、もう少し110番の看板を大きくするなり、箇所を増やすなりといったものがやっぱり必要になってくるのではないのかなという気がしております。少しとりとめのない話になりましたけれども、とにかくやっぱり親の目、地域の目というのが一番重要になってくると思います。その辺を今後また強化していきたいと考えております。

(藤野区民生活課長)

ちなみに、もうすでにマップのほう、情報を入手されていらっしゃるということですが、地域の方のマンパワー、具体的な人数って限られていると思うのですが、これはもう人数的に不可能だとか、何とかやっつけていけるなとか、その辺はどんな状況ですか。

(小林自治協議会会長)

そうですね、これは各自治会ごとに物事を考えれば、そんなに難しい問題ではないと思います。通学路はやっぱり2キロぐらい、丸小の場合ですと一番遠いところで2キロぐらいあるのですが、全部集落がつながっていますので、そこに二人、三人立てばまんべんなく見渡せる状態ですよ。ですから、パワー的には各自治会に協力をお願いすれば、ある程度当番制でも何でも辻立ちすることは可能だと思います。

(藤野区民生活課長)

わかりました。ありがとうございます。なかなか地域によっては、「マンパワーの絶対数が足りないからすごく難しい」なんていう声が伝わってきているところもあつたりするのですが、そうなってくると、区全域を活動エリアにしている民生委員の方ですとか、育成協の方ですとか、そういう団体の皆さんの協力を得る必要というのが出てくると思うのですが、具体的に民生委員の立場として佐藤さん、いかがなものなのでしょうか。

(佐藤民生委員児童委員協議会会長)

私は、この前会議がございましたときに、その次の江南区の会長会のときにこういう会議ができたという話はしたのですが、まだ実際にみんなでこの安心安全などについて、私の担当地区は亀田西小学校区ですが、先ほど津野校長先生がおっしゃられたような会議がずっと続けられてきました、安心・安全の。この地図を見ますと、ほとんど、これは交通安全のほう为主体のような地図ですよ。そうではなくて、学校区で、それぞれの学校で子どもたちの安心・安全を守るための会議はこういう感じではなくて、これももちろん含めてなのですが、交通安全というのは当然子どもたちについて回りますので必要なのですが、もう少し「ここはあまり通らない」「ここはちょっと常に目をかけておいたほうがいいんじゃないか」なんていう、表通りではなくちょっと横道、そういうところを中心に拾って、先生がおっしゃられたようにその次の会議のときは父兄と一緒にその地域を回らして、そして私はその次の会議には出られなかったのですが、それについての対策を検討するというので、私は鈴木さんと同じ地域なので、その辺は、まだマップが完全に来上がっていないと思うのですが。

それと、常々、また社会福祉協議会とかいろいろなところで、その地区ごとに会議を開きまして、安心・安全のための。子どもたちだけではなく住民全体の安心・安全のための会議とかということで、幾つかあるもので、この会議の趣旨の、子どもたちを犯罪から守る安心・

安全という立場から言いますと、小学校区でやりましたあの会議が一番、交通安全もそうなのですが、交通で激しいところではなくて、子どもたちがちょっとそこを通らないでまた別の道を常に通るようなところを中心にしてやりまして、結論はまだ出ていないと思うのですが、私もマップをまだ見せてもらっていませんので。

民生委員は、この前もお話ししましたけれども、それぞれの地域で合併する前からそれぞれ民生委員活動として、民生委員は民生委員児童委員ということで活動しておりまして、私ももともと亀田地区全体だったのですけれども、もう15年、もう少し長く、そのころから地域を回らせてもらうという活動をずっと続けております。今でもそうなのですが、民生委員の仕事もそればかりというわけになかなかいかないので、むしろ最近はお年寄りのほうがなかなか労力があるので、子どもたちの安心・安全のことにに関しては、子どもたちが遊んで歩くとか、通学路とかのなるべく人目につかないような道を通る子どもたちに対して、何とか安心・安全のようなことをということで、やっぱり地域の皆さんから出ていただいて、その地域を守っていくというような活動が一番いいのではないかとということで、われわれ民生委員会というのではなくて、やっぱりコミ協を中心にして、鈴木さんはコミ協の推薦ですけれども、そういう感じで活動しておりまして、連携してやっていると。私ども民児協は、週1で下校時に子どもたちと行ってます。一番初めに始めたのは子どもたちとあいさつ運動をやるということで始めたのですけれども、今は子どもたちもわれわれとしょっちゅう顔を合わせるもので、よく知っていますので、あいさつは向こうの子どもたちも承知してあいさつしてくれますよね、われわれもそうなのですが。そういう感じで、ともかく密接に、そしてわれわれが見ているときだけではなくて、ほとんど地域の皆さんから下校時とか登校時もそうですけれどもちょっと出ていただいて、みんな子どもたちが学校へ行ったらそれで終わりとか、帰る時間は3時から5時ごろまでとか、そういう感じで地域の皆さんから出ていただくのが一番いいのではないかとというような話にはなっていますけれども、具体的にどうしようかというところまではまだいっておりません。私は江南区の会長ですけれども、各地区の、亀田だけではなくて江南区全域の皆さんから、もう少し具体的な細かい話をそのうち聞きたいなと思っているのですけれども、今まで機会がなくて、今日は会議に寄せていただいて、いろいろなお話を聞けると思っていますので、この次の会長会にはその話を出して、皆さんにももう少し意見を聞きたいなと私は思っています。そんなところです。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。今ほど、今までの活動の中心がどうしても高齢者の見守り中心にならざるを得なかったというようなお話だったのですけれども、1回目のときに社会福祉協議会の今井さんからも同様のお話があったと思うのですけれども、実際にこういう危険箇所の種類別の件数が出て、マップもいずれ社協さんにも伝わっていくことになるのかどうか私も把握していないのですけれども、ご覧になって社協として何か取り組みを考えようかなとかという辺り、何かありますでしょうか。



(今井社会福祉協議会会長)

社協の今井と申します。まず、感想を述べたいと思うのですが、今日マップを見せていただきまして、校長先生からの一覧という、この取りまとめは、交通安全マップが各校区で策定されたものを基礎として承認をもらった中で、またもう少し裏付けをというような感じになったのですが。私はざーっと見て、今回、曾野木の小学校区、それと早通小学校区の内容が、要は交通安全よりも防犯面をどうも重視しているような感じ、本当にその地区の現状を把握して記載してあるなど、この地図を見て感じました。当然、この内容を見ますと行政側も手伝いをしなければだめな面もあるし、また、地区の自治会としても対応するような面もあるし、また、学校だとか地域みんなで対応していくという方向が、この地図を作成することによって見えてきているかなと感じています。その中で、社協もどんどん協力できるものは協力したいと思っていますけれども、ほかの校区も交通安全は当然含まれますけれども、もう一つ、登校なり子どもたちの見守りを強化していくと、通学路外のそういう地域内の見守りも強化していくのだという観点に立てば、東曾野木小のマップだとか対象になったマップを見ると、地区の現状をよく把握していますから、そういうところをまた重点的にどう巡回したり、地域住民みんなで見守りを続けるかということの方法論が、こうなるとまたちょっと見えてくるのではないかという感じをこのマップを見て受けました。以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。公園愛護協議会の大野さん、やっぱりマップを見てどうしても目が行くところは、公園で危険箇所になっているところがあるかなとかであったり、おそらくご覧になっていたのかな、なんていう気がするのですが、何か感想でも結構なのですが一言お願いできますでしょうか。

(大野公園愛護連絡協議会会長)

そうですね、先ほどから話になっておりますけれども、マップが各地区によっていろいろな違いがあるなど。何も統一する必要はないのでしょうかけれども、そんなふうに思ったのと、マップまでつくるまでにきたなど。ここまで考えてやってきた、これをいかに全世帯、配布するという話なのですが、配布して共通の認識を得られるかというのが一つのポイントになってくると思うのです。私は、やっぱり見守り活動を強化するというのが子どもを守る一番のポイントではないかと思うのです。防犯カメラをつける、これも一つですけれども、やはり住民の目が圧倒的に多数なわけですから、いかに住民、あるいは子どもの啓発ですね安全に対する。全員で見守るという意識改革をやっていく必要があるのかなと。それにはやっぱり情報共有、このマップの配布、この辺から始めて、それから先ほど出ております110番の家が少ない。確かに私もそう思います。どこが110番なのかなと、あらためてこの地図の中にある110番の家を見て、「ああ、そうなのかな」と。先般、看板の話が出ていました。看板もそうですけれども、その辺のどこにあるのかというのを徹底するのと、今ほども出ま

したそれを増やす、それから 110 番の家でなくても飛び込めると、とにかく事があつたら近くの家、近くの人に助けを求めなさいと、そういう教育も必要になってくるのではないかと。110 番の家を探すのも大変です。そこまで行くのも大変だと思うのです。というような方向性がいいのかなとは考えております。ちょっととりとめがありませんけれども、以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。ちなみに、愛護協会で何か、いずれこういう総点検の結果が出てくるけれども、出てきたものをみんなで何か取り組みの材料として活用しようかなんていう話は、内部では特に出ていないですか。

(大野公園愛護連絡協議会会長)

ええ、出ていませんけれども、公園愛護の会議等でやっぱりその辺を踏まえて話をして、みんなでどうしたらいいのかというような話し合いを持っていこうとは思っております。はい。一番子供が遊ぶ大事なところでございますので。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。いろいろな立場からの視点でご意見、感想をいただいたのですが、見守り対象である子どもの保護者ということで、保護者の視点から何かコメントをいただければと思うのですが、新田見さん、いかがですか。

(新田見小・中学校PTA連合会会長)

このマップを見ての感想は、地域によって差があるなというのはすごく感じました。私の子どもは中学校に通ってしまっていて、大淵小学校だったのですがけれども、私が危険なのではないかなと言ったところに印がないのも、どうやって点検したのかしらと思いました。地域によって差があるのは仕方ないと思うのですがけれども、やっぱり先ほど小林さんがおっしゃられたように、農村地域といいますか田んぼの多いところだと、外灯もついていますがけれども間隔があつたり、小学校ですと大体帰る時間も、遅くても家に着くのが4時ぐらいだと思うのです。4時には大体着いていると思うのですがけれども、中学校ですと今部活動をやつて帰ってくるのが5時半、6時ぐらいになると、今の時間ですと真っ暗なので、外灯があつたとしても一人で帰って来させるのは、うち、子どもは娘がおりまして、女の子が一人で帰ってくるのはやっぱり怖いと言っていますし、そうかといつても同じ方面一緒に帰る子がいないとどうしても一人になってしまうので、休みで送迎できるときはしているのですがけれども、全部のお宅はそういうことができるわけではないですし、そういったところで、夏場で時間が遅くても明るい時間に帰ってこられるときは、歩きでも自転車でもそれほど心配はないのですが、こういう時期になったときに共働きのご家庭も多いでしょうし、地域の方と言われましてもなかなか暗い時間に表に出るということもそうないと思うので、そういったときにどうしたらいいのかなというのは最近また考えています。

(藤野区民生活課長)

ちなみに、差し支えなければ、新田見さんのご家庭でこのマップを、お子さんとどんなふうに共有されたかなんていうのをお聞かせいただけますでしょうか。

(新田見小・中学校PTA連合会会長)

このマップを見ながら話はしていなくて、地域差があって、同じ方面で帰る子がいる子どもに関しては、たぶん徒歩でも自転車でもそんなに心配はないと思うのですけれども、うちは本当に田んぼ道を延々と、そうですね、徒歩ですと20分ぐらいでしょうか、歩く感じになってしまうのです。外灯も一応あるのですが、車の通りも、あって数台、5台ありますかね。ないと、車の通りも本当にないようなところなので、小学校のときから思っていたのですけれども、防犯ブザーも持たせていました。ですけれども、防犯ブザーを鳴らします、キャーって言いますといったところで、声も届かないし、助けてくださいと入るようなお宅もないですという箇所を、どうしても登下校で通らなければいけないといったときに、防犯ブザーを持たせたところで何の役にも立たないじゃないかと思ったことは正直ありました。たぶん、今の小学校に通っている子どもも、地域は西野なのですが、登校時は集団登校なので割と人数が固まって行くのですけれども、帰りはどうしても全員が同じ時間に帰るわけではないので、小学校に通ってた時は下校中に不審者が出たという話は私の子どもが通っていたときはなかったのですけれども、中学校の、上の子、2年ぐらい前ですか、帰り道に農道を通っていたときに不審者に追いかけられたというか、女の子で体を触られたという事案もあったので、何かいい案はないかと思うのですけれども、いかんせん、本当に人も車も通らなければ、歩いている人も、ウォーキングされている方もいるにはいるのですが、そんなに人数が多いわけではないですし、大きな音を立てるとか、そういった物を持たせても役に立たないというか、ということ考えたときに、あそこの道を通るのはどうなのかなとは思っているのですけれども、遠回りをしてしまうと本当に距離が長くなってしまいうので。

(小林自治協議会会長)

よろしいですか。今、新田見さんが西野地区で住まわれていて、大淵小学校、大江山中学校、ともに原っぱを通らなくちゃいけないのです。その反対側に行くと、地名で言うと細山とか蔵岡とか、そういった原っぱが相当距離が長いんですね。ただ、やっぱり先ほども言ったように、これは家庭だけの問題ではなくて、やっぱり自治会、町内会、コミ協にその辺を的確に下ろして、やはりある程度当番制とまではいかななくても、地域住民がその辺の監視を強化するという手立てを取る以外にないと思うのです。本当に町場と違って大江山地区はそういったところで、原っぱが多かったりそういう地区がありますので、今言われたように防犯ブザーを鳴らしてもそれが届かない、助けるすべがないというのが明らかになっていますので、やっぱりこれは地域住民に一括して本当に全体で見守るというやり方をせなくちゃいけないと思います。

それで、この地図はマップをつくるときに私も参加してずっと校区を全部歩いてみたのですが、マップに載っかっている部分と、いやちょっとここ待てよという部分と確かにあることはあります。だけど、ある程度これは絞られてまとまっていると思いますので、この辺をやはり家庭で子どもたちと共有して、子どもたちにそういったところを、再度危険箇所を認知させるということも必要になってくると思います。何が何でも地域全体で、一括包含して見守るとというのが一番的確だと思いますし、各団体で下ろすにしてもなかなか時間がかかると思うんですね。一番手っ取り早いのは、先ほど言ったように自治会、町内会、コミ協という各ところから個別にこういった内容、マップを配布するなり、地域に話してもらうというのが一番スピーディーに地域に伝わることだと思いますので、そういったものをやはりこれから強化していくべきではないのかなという気がします。

(佐藤民生委員児童委員協議会会長)

今回のこれはほとんど小学校区で決定したやつですよ。

(藤野区民生活課長)

そうですね。

(佐藤民生委員児童委員協議会会長)

中学生はどういうふうにわれわれは考えればいいでしょうね、その安心・安全については。先ほど農道の話が出ましたけれども、私どもの西地区は中学校は早通地区と一緒に西中学校なのですが、小学校は別々になっているものですから、早通は小学校はバイパスを越えて来ることはないし、われわれも向こうに行くことはないのですけれども、中学生は学校から農道を通して越えて行く生徒が結構います。そういうのをどういうふうに考えればいいのか。私はよくあそこへ犬の散歩に行くのですが、中学生が結構います。どこが通学路になっているのかわかりませんが、学校から近いところを通って行く生徒が結構いますので、そういう生徒はどういうふうにすればよいか、なるべく二人、三人と一緒にいけばいいのでしょうか。やっぱり一人で帰ってくる、それも薄暗くなったようなときに。今は部活なんてあるとむしろおそらく暗くなっていますよね。そういうのをわれわれはどういうふうに、私ども民生委員会は、西地区の民生委員会は早通も私どもも一緒なんです。だからそういうところはどのように考えていったらいいのかと、ちょっと思いましたので。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。確かに、今回全国一斉に実施したこの通学路点検、通学路指定されるのは小学校で、中学校においては通学路というものは指定されないということもあるのですが、では中学生は見守りの対象ではないのかということ、やっぱり見守りは必要だと思うのですが、実際にこのマップですとか件数の状況をご覧になって、校長先生として何か、今の佐藤さんのご意見を踏まえてコメントをいただけますでしょうか。

(佐藤中学校長会代表)

中学生も心配していただきましてありがとうございます。この時期、中学校の場合は10月の上旬、体育の大会が終わると下校時間が、学校によって多少違いはありますが、夏場は6時半完全下校と言っているところが多いと思いますが、10月半ばぐらいから5時半になっていきます。5時半といってもこの時期はもう真っ暗です。毎日真っ暗なところを下校しているというのが実際です。このたびの小針の事件を受けまして、市教委の方から指導もあまりして、今もそれは各学校でいきていると思いますが、できるだけ複数で帰りなさいということと、明るい道を通りなさいということは常々指導しておりますので、そのことは各学校では一貫して指導されていると思います。ただ、おっしゃるとおりに、近くになりますと暗いところを一人で回ってくる場合はあり得ます。そうしますと、私が考える分にはやっぱり、可能であれば警察の方に暗くなった時間帯に重点的に回ってもらう。毎日じゃなくても、時々回ることによって、いるんだぞということがわかれば警告ということにもつながりますので、そういう動きを地域全体でして、もちろん自治会長さんからもご協力いただいて、地域の方から見守っていただくということも大事だと思いますが、それと併せて警察の方をお願いをしつつ、パトカーが来るとやはり「おっ」となりますので、そういう抑止力を働かせることで、子どもの安全を守ってあげるといようなことを常々考えてはおります。

マイクをいただいたついでに、お話しさせてもらっていいですか。このたびの総点検のことですごく大事なことが分かったと思うんですね。今、お話の、ここまでの前半の会議では、視点の①から⑧⑨の中の、①②③番のところに重点を置いていこうと進めてもらっているということで、なるほどそうなると思うのですけれども、安全な環境づくりということからすると、④番の「落書きがある」とか「壊れたままになっている」とかというような環境はいかなものかと思います。また、不審者事案に関しても、それも今ほど申し上げたように、警察の方をお願いして時々回ってもらうような態勢を常にとってもらうとか、灯りがなければそこは明るくなるようにするにはどうすればいいかということ、具体的に落としていくことが大事なのではないかと思います。落書きがあった、壊れたものがそのままになっているということは、環境としてやっぱり安全・安心な環境とは言えないわけですよ。子どもをよい環境の中で育てていくということも大事な視点ではないかと感じましたので言わせていただきました。以上です。

(藤野区民生活課長)

ちなみに、このマップを中学校で何か活用されるような予定は。

(佐藤中学校長会代表)

今は、まだ想定していませんでしたけれども、マップを作成するにあたりまして、中学校の職員も一緒に参加させてもらって、実際に現地を歩いて、ここは危険ですねということは共有しております。それは、子どものほうに各学校で下ろしていると思います。以上です。

(藤野区民生活課長)

先ほど、鈴木さんから。

(鈴木五月町防犯防火部長)

ちょっと話が下手なものですから。先ほど、大野さんからご意見がありました。110番は180ぐらいなんですよね、江南区では、何かあったときにそこへ飛び込めといったって、子どもたちは頭にあるかもしれないけれども、たまたまあればいいけれどもないのだから、私は中島、大月の子どもたちに言うのだけれども、110番だけでなく、いつも通るときは必ず開いている工場とか、開いている玄関の家とか、こういう自分たちも研究しながら歩いていきなさいよと言っているんですよ。

それと、今ここでこういう話をしたって、役員とか自治会とかもろもろの限られた人だけの共有しているんじゃないかと思うので、できれば、私は下校時に対しては、せめて通学路の家の方々から、そろそろ子どもたちが帰ってくる時間だと、3時から4時ぐらいの間はそういう心も、出なくてもいいからそういう気持ちだけ、意識だけでも持って、かたちでやったら少しでも人と人の目、耳はやっぱり一番効果があるでしょうから、そういう臨戦態勢というとなると言葉はきついのですが、個々に江南区のためにも、下校時の時間帯には少しでも皆さん、子どもたちがあがってくる時間だなというのを頭に置いてもらって、こたつにも入ってもらって、何かあったときにこの家の外を見るのも一つの監視の目、抑止の目ではないのかなと思うので、地域の住民の下校時の時間帯に対する意識の向上というのでしょうか、それを私はもっとやっていただければ、一番大事なのではないかなと。私がさっき言ったように、団体とかそういうものだけではなくて、だって、われわれがわかっている、地域の住民なんかほとんど関心がないと思うんですよ。私の町内に一人いるのだけれども、とにかくどうやったら自分たちくらい住民が、防犯なりいろんな面での意識の向上をどうしたらいいのかと、自治会とかいろんな会議でそういうふうに言っている。それでもあんまり効果がないみたいだけれども。そんな方法もあつたらいいのかなと私は常々思っているんです。以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。まさに、住民の目が、目耳の見守りだというお話だと思うのですが、先ほど校長先生からもお話があつたのですけれども、江南署の署長さん、コメントをいただけると。

(五十嵐江南警察署長)

私からは、不審者情報に係る警察からの情報提供、小林会長さんから先般要望がありました110番の家の件について、お話ししたいと思います。

警察が受理しました不審者情報につきましては、全部流すかというとなかなか悩ましいところもありまして、夏休み前に女子高生が被害にあった強制わいせつ暴行事件が、亀田駅を中心に大淵まで発生があったのですけれども、これについては私どもも事件として認知していますので、安全・安心メールで発信し、江南区役所さんをお願いして警戒のチラシを配布させていただきました。ただ、行為者を特定して、全容がわかると、これはいろんな方がおられます。行為者から話を聞くと、「いや、悪意なくて声掛けた」とか、さらに精神的な疾患がある方だとか、発信するべきでない場合もあるので、行為者がわからなくて、子どもたちを追いかけたとか、腕をつかまれたということに関しては、これについては積極的に安心・安全メールで発信していきたいと思います。ただし、これも安心安全メールを見ていない、登録されていない方は見られていないんですね。そこら辺を今後どういうふうに皆さんに情報提供していかなければならないかなと考えています。

(川上江南警察署生活安全課長)

どうも皆さん、ご苦労さまです。江南警察署の生活安全課長をしております川上と申します。今、こども 110 番の件がありましたので、実際にプレートもお持ちしました。大、中ございます。当初はこれで発信しました。その前に、こども 110 番の家って何なの？いつから始まっているの？という話ですが、ご記憶あるかな、平成 9 年から始まった制度といいますが、見守り活動であります。じゃあ、これはなんで平成 9 年にスタートしたかという話なのですが、神戸市で小学 6 年生の男子児童が殺害された事件がありました。いわゆるサカキバラ事件と言うと「ああ、あの事件ね」と思いますが、あの事件を契機に子どもの安全対策をさらなるというようなかたちで全国的にスタートした制度であります。当初、こちらの小さいほうで始まったのですけれども、今現在はもうほとんどこちらの大きいサイズの型に掲示をしていただいているところであります。当然、プラスチック製で経年劣化で見栄えが悪くなってくる、傷んでくる、雨風にさらされますので壊れました、飛んでいきましたという物につきましては、警察にいただければ予備をご用意していますので、その都度お配りしておりますし、今後も 1 件でも協力していただくようなかたちで、現に今回の西区の事件を受けまして、数件の一般住宅の方が中心になるのですけれども、うちも参加させていただきたい、掲示したいというようなかたちでお声がけありまして、非常に心強く思っておるところであります。このようなかたちで、こども 110 番の家、さらに拡充を図っていききたいというのはありますし、また、これは民家といえますか定点での警戒であります。それ以外にも、いわゆる事業活動の一環というようなかたちで、こども 110 番、総称なのですが、こども 110 番の車というのがございます。これは、いわゆる事業活動で、例えばタクシー、または、セールス活動、営業車で回っているお車などにステッカー等を掲示しまして、何かあれば声をかけてくださいよ、または何かあれば、見つければ警察通報いたしますというようなかたちで、数多くの事業者さんからもご協力をいただいております。今後こういったかたちで事業活動の社会貢献というようなかたちで、非常に取り組みが今活発になっておりますので、そういったところからご協力いただいでいくのも一つの今後の方策なのかなというかたち

で、警察としても、そういった事業者さんとさらに連携してやっていきたいと考えております。私から、簡単でございますが以上でございます。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございました。江南署の署長さんにお聞きしたいのですが、この点検結果を受けて、警察署として何か取り組みをする予定があるのかとか、あと先ほど中学校の校長先生から暗くなった時間帯についてはできれば警察のパトロールをというお話だったのですが、その辺りを踏まえてコメントをいただけますでしょうか。

(五十嵐江南警察署長)

わかりました。このマップを作成されて、私どもも、その後うちの職員も一緒に回らせていただきました。あらためてその危険場所、認識を確認しましたら、そこら辺を踏まえて、また私どものほうで必要であれば、またカメラ等も検討していきたいと思えます。先ほどのパトロールの件なのですが、事件以降、私から職員に対して、児童の下校時の重点的パトロールについては指示しています。ただし、事件事故の対応とか職員の体制とか、なかなか全ての校区を下校時に対応できかねないというのが正直なところですが、出来る限り、児童の下校時については警戒態勢を保つようにということで指示しております。先ほど、生安課長からもありましたけれども、私どもの目が届かないところは地域の皆さん、さらには事業所からもご協力いただいて、見守り活動をやっていただくようにこれからもまた進めていきたいと思えますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございました。

(津野小学校長会代表)

たくさんのご意見をありがとうございました。こども 110 番の家についてまずお話ししたいと思います。当校のマップには載っていないのですが、一つは先ほど大野会長さんがおっしゃられたように、110 番の家に限らず危険があったらその近くのうちに行きなさいという指導はしています。もう一つ、これは間違っているかもしれないのですが、学校が毎年確認していると思うんです、110 番の家。違いますかね。110 番の家を続けていただけるかどうか、やっていただけるかどうかって学校が確認していますか。

(川上江南警察署生活安全課長)

どうでしょうか。全部の学校が全て年 1 回なり、それから機関で確認しているかというのは把握しきれいていません。

(津野小学校長会代表)



これは私の記憶だと、110 番の家にお問い合わせするとずっとなるわけではなくて、特にマップなんかをつくる時なんかはやっぱり学校で確認して、更新ではないけれども、中には今年辞めます、辞めたって言ったのなんで載ってるんですかみたいな話もあったりして、それはちょっと前の話だから、私が教頭の時だから違うかもしれませんが、お願いは、それこそ地域の方に 110 番の家というので協力していただませんかという、行政からお願いをしていただけるとありがたいというのが一点です。もう一点、お話をお聞きしていて、本当にやっぱり先ほど親の目、地域の目を強化すると小林会長さんのお話がありましたが、本当にそうだなと最近思っていて、小学校で取り組んでいかなければいけないというのは、地域で守る環境をつくる。そこで該当しない子どもが先ほどのパトロールという、ああ、そっちも見なければいけないと気づかせられたとともに、地域の見守りというのを強化していかなければいけない。小学校で今考えているのは、PTAと自治会とに結び付けていくか。PTAには、どの学校にも育成部という自治会から必ず役員さんが出てくる組織があるのです。その自治会から出てきてくださっている役員さんと、自治会長さんにつながってもらおう。先ほどあいさつ運動というのがありましたけれども、あいさつ運動を含めて地域の行事にもできるだけ子どもが参加できるようにしていただく。そういう子どもが地域のところに参加していく、そのかわりにじゃないですけども、ぜひ、この子どもたちを地域で見守っていただませんか。学校が今やらなければいけないのは、PTAと自治会をつないで自治会の意識を高めていくという、それも地域差が当然あると思うのですが、特にうちの学校なんかはそこを始めていかないと変わっていかないのかなというのは考えているところです。以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。もしでしたら、津野さんから出てきた 110 番の家の制度の更新の部分とかがどうなっているのかというところなのですが、これは 1 回申請して認められると申し出でがない限り継続する？

(川上江南警察署生活安全課長)

そうです。そのまま毎年、意思確認などは特にしておりませんもので、実際にお受けいただいた方から、「すみません、もう辞めさせてください」という意思表示を頂かない限りは継続してお受けしていただいているものだと判断しております。

(藤野区民生活課長)

わかりました。ありがとうございます。

(米山区長)

いろいろご意見をいただいてきた中で、これはまた思うところなのですが、先ほど、東曾野木とか早通など、相当細かく作ってあったと今井さんから、その中で行政とか地域とかで

きることというのは見えてくるのではないかと、まさに、ここまで結構細かいと、じゃあどうしていくというのがやっぱり次に出てくると思うんです。いろいろもちろんそれぞれの地域の中でやっていくという部分もあるのでしょうけれども、今日、この会議の中でも、この会議の中で出てきた提案というか、そういうのも見えてきている部分があるのではないかなと思っていました、例えば、先ほど鈴木さんから、人家から見てもらおうとか、あるいは事業所、いろんな工場とかそういったところからできるだけ見守りに協力してもらおうとか、あるいはコンビニに飛び込んだときに助けてあげてくださいとか、そういうところについては、今からでももうできる話があるのではないかなと。要は、例えばいろんな通学路なり地域の中で、回覧的なもので例えばチラシを配って「人家の皆さん、見守りにご協力ください」というのを流すとか、あるいは事業所、大きなところとかそういうところがあれば、夜にやっているようなところがあれば、「ぜひ見守りにご協力ください」、あるいは「何かあったときに助けてあげてください」というようなことができるところも見えてきているのではないかなと思うので、次回、この後いろいろあるでしょうけれども、いろんな対策、中でも今ここに出てきていて、今からでも、その部分で文章を流すのは行政だってできると思うので、できる部分はやはり早めに取り組んでおくべきではないかなと思うところです。

あと、それから、先ほど警察、いろいろ巡回、結構登下校時に巡回していただいているという中で、なかなか手が回らないという部分もあると思いますので、そこはうまく青パトと連携させていただいて、うまく効率的に回る、同じところを回っていてもしょうがないわけで、回るような手段を考えていったほうがいいのかと思いますので、それもまた相談をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。以上です。

(藤野区民生活課長)

もしでしたら参考までになのですが、小学生、中学生が見守り対象という位置付けにはなっているのですが、いずれ保育園の園児、保育園の保護者はその年代になっていくのですが、この点検の結果ですとか、何か保育園で活用したり、保護者への啓発とかというような動きというのは出てくるものなのでしょうか。

(青山健康福祉課指導保育士)

今現在は、保護者と一緒に登園しているわけが、今の皆さまのお話をお聞きして、これからは一人で通学する今の年長児を思い浮かべておりました。子どもたちには普段から交通安全を含めて、散歩時にいろんな指導もしているところなのですが、あらためて、何か困った事があったら、誰でもいいから声を掛けていいんだよということや、助けを求めるということをまた伝えていく必要性があると思いました。保護者の方も心配でしょうから、子どもと一緒に安心感を持って入学ができるように、事前に危険箇所を親子で歩いて行く、その確認が必要だということも伝えていかなければと思っておりました。いろんな地域から通ってくるお子さんたちですので、普段は自動車でおうちの方から送迎してもらっています。集団での散歩はあっても、個人での通学ということになると、また子どもたちにも安全につい

で強く意識をしてもらわなければと感じておりました。こういうマップが作成されて地域に配布されるということになれば、これを基に親子で入学前に危険箇所をピックアップしながら、事前確認で歩くということに大いに活用させていただけるのではないかと感じました。ありがとうございます。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございました。  
そろそろ時間も迫っております。

(今井社会福祉協議会会長)

すみません。1点だけ。抑止力を高めるという観点から、私の町内でも十数年前でしょうか、大きな看板があるんです。それは、「安心・安全宣言地域」という看板を掲げて、横に「旭・大月防犯防火訓練」と名前を入れた看板がボンと立っている、何か所か。やはり、それをバツと見た瞬間に「ああ、そうか。この地域はそういう地域にして取り組んでいるんだな」という、これは今度組合で活動しているわけですけども。やはり、一つの不審者に対して抑止力という観点から見れば、そういう看板類なんかも、同じ内容でなくていいでしょうけれども、何かそういうものを、この地域は皆さんで見張っているんだよと、それだけ注視をして、自分で、みんなこのまちを守るんだというような意識があるんだというようになると、不審者も近づけないとかやりにくいというようなことにもつながっていくのかなと思いますので、ひとつ、そういう例として、抑止力を高めるための何か政策的なものを、そういうのも考えてもいいのではないかと感じていました。以上です。

(藤野区民生活課長)

ありがとうございます。ほかに、ご意見のある方がいらっしゃれば。

(鈴木五月町防犯防火部長)

今井さん、あの看板旭ですか。

(今井社会福祉協議会会長)

旭です。

(鈴木五月町防犯防火部長)

あれは、組合でつくったのですか。

(今井社会福祉協議会会長)

組合という文字が入っていました。

(鈴木五月町防犯防火部長)

ああ、そうですか。

(今井社会福祉協議会会長)

旭、大月防犯防火組合。

(鈴木五月町防犯防火部長)

ええ。私らのところも、3枚ほどつくっています。昭和60年ころは、警察も予算がありつくってくれました。

(今井社会福祉協議会会長)

警察の予算でつくってくれた？

(鈴木五月町防犯防火部長)

ええ。今は、なんとも言えないけれども、警察の予算も厳しくなったものだから、あまり私らの要望も通らないみたいだけれども。私どもも五月町で看板をつくろうかなと思いましたがあちこちにあるためどの看板を破棄し、どこにつけるか調整が難しいためつくらないでいました。

(今井社会福祉協議会会長)

ポイントポイントで。

(佐藤民生委員児童委員協議会会長)

結構大きいのをつくろうとすると、金が結構かかる。

(鈴木五月町防犯防火部長)

結構、でかいからね。木の枠で、もう30年近くあるんじゃないかな。

(今井社会福祉協議会会長)

大きい方は縦長で。

(鈴木五月町防犯防火部長)

ええ。私らのところも、3枚ほどつくってます。昭和60年ころは、警察も予算がありつくってくれました。

(藤野区民生活課長)

そうしましたら、時間も迫っておりますので、次第の2番の意見交換についてはこれくら

いで終了させていただければと思います。

次第の3番です。資料2というのをお配りしております。第1回目の会議のときにも少し触れさせていただきました。江南区の中で取り組みをしている団体、活動内容、これを情報収集して皆さんで共有して、それぞれの団体の取り組みのさらなる充実につなげていく参考にしていただければということでお話させていただきました。具体的に情報収集するにあたっての調査票の案を私どものほうで作成しました。それが資料2になっております。

「いつごろからやっていますか」とか「何人体制でやっていますか」とか「費用はどれぐらいかかっているのでしょうか」とか、そういった内容になっております。これをちょっと今ざっとご覧いただいて、この場でご意見をいただけるようであればいただきたいと思いますし、また、帰られた後にじっくりとご覧になっていただいた上で、「やっぱりここはこうしたほうがいい」とか「もっと質問項目を追加したほうがいい」とか、そういったものがあればお聞かせいただければと思うのですが、今、この場でご覧いただいて何か思うところ、ご意見等があるようでしたらお願いしたいと思うのですがいかがでしょうか。

(小林児童委員協議会会長)

よろしいですか。

(藤野区民生活課長)

お願いします。

(小林児童委員協議会会長)

このアンケートの調査結果、これはどういう形態での活用をお考えでしょうか。

(藤野区民生活課長)

一応、今のところは個人情報に関するもの、例えばここに出ております代表者の方のお名前ですとか、連絡先とかという辺りは積極的に広く公表ということはなかなか難しいと思いますので、団体名ですとか活動内容、どういうサイクルで何人ぐらいでやっていたか、そういうものを一覧にして自治会、町内会、あとその他配布をして参考にしていただければと考えております。具体的な詳細について聞きたいと個別に問い合わせを区役所にいただいたときには、じゃあこの電話番号で、何々さんが取りまとめ役をやっているのでそこに直接聞いてくださいとか、そんなイメージで今のところは考えております。

(米山区長)

一つの方法として一番。

(小林児童委員協議会会長)

要は、啓蒙を図るということ。

(米山区長)

啓蒙を図るといってもそうですが、もう一つは、一番最初に私からもあいさつをさせていただいた中でお話ししたように、いろんな活動をやっている部分、それがお互いに見えていない。それを重ね合わせた中で、この部分はもっと活動できるのではないかと、要は前にも穴が見えてきたら、その穴を埋めていくというふうなことに繋げていくために、皆さんどういった団体がどういった活動をやっているかというのをまず把握して、場合によっては例えばこういう見守りマップの上に落とし込んでみたりとか、そういう話の中で、じゃあこの部分は穴が開いているからその部分をどうして、どういったふうな対応が考えられるだろうかとか、そういうふうなことで使っていければいいかなという部分が一つ大きな目的としてはあるということです。

(小林児童委員協議会会長)

わかりました。

(藤野区民生活課長)

では、持ち帰られてまた気づいた点等がありましたら、区民生活課のほうに。

(津野小学校長会代表)

すみません。団体に対してアンケートを行うということだからかなと思うのですが、学校のセーフティスタッフが抜けているというのがあります。ですから、各学校宛てに配布していただいて、セーフティスタッフの方、兼ねている方もたくさんいらっしゃるのでもそれはそれとして、その情報はあっているかなと思います。ですから、問1、問11に学校が入ってくるという。

(藤野区民生活課長)

わかりました。ありがとうございます。

(米山区長)

ですよね。今、ふとそういう話を聞いて思ったのが、わかっている団体にはこれを配布する、把握できている団体だけなので。本当は把握できていない団体もあるかもしれないところを、どう把握して送っていくかというのも一つ課題ですかね。

(藤野区民生活課長)

送り状の中には、このくくりの団体に送っているのだけれども、そうじゃないところがあって、気がついたところがあれば区役所に言ってください、こちらからまた別途郵送しますとか、あと区だよりも今こういう調査をやっています、届いていないけれども活動をやっ

ているところがあつたら連絡くださいって、そんな感じでやろうかななんて思っています。

(津野小学校長会代表)

これは各自治会にも配られますよね。

(藤野区民生活課長)

そうですね。

(津野小学校長会代表)

そこがとってもありがたいのと、行政から自治会に働きかけていただくし、学校から、これも実際さっき言ったような、それがうまくリンクしていくのがこの会議のとても大事なことかなと思っています。

(小林自治協議会会長)

各コミ協で、自分のところの所属団体といいますか、結局これ、内容を全部把握していると思うんですね。そうすると、まずコミ協に投げかけて、どんな団体があるのか、それをまず確認したほうが手取り早いのではないですか。今、校長先生がおっしゃるように、セーフティスタッフはこれ抜けていますよね。だから、そういったところもコミ協では全部確認していると思いますので。

(藤野区民生活課長)

わかりました。ありがとうございます。

そうしたら、あと、後ほど気がついた点等がありましたらお寄せいただければと思いますので、よろしくお願ひします。ちなみに、できれば12月中には発送できればと考えておりますのでよろしくお願ひします。

その次、次第の4番の、その他なのですが、資料3をご覧いただきたいと思います。これは9月7日の第1回目の会議の意見交換ですとか活動紹介の部分について要約して載せました。会議録という位置づけで捉えていただければ結構かと思うのですが、やはりこの会議が広く情報を区内で共有しましょうという目的がありますので、ここでどういう議論がされたのか、どういう意見交換、どういう活動紹介がされたのかというのも求められたときにお示しできるようにというのと、あともう一つは、ほかの区の担当部署からも実は依頼が来ていたりします。その配布した資料をちょっと送ってよとか。そんなときにも、1回目のときにこういう意見交換、活動紹介がなされましたというのも役所の中で共有したいななんていうのもありますので、そういう視点でこれをつくりました。ということで、発言された、発言していただいた内容がちょっと趣旨が違うんだけどとかというのであれば、お知らせいただきたいと思います。積極的に広く公表をどんどんしていくということではないのですが、求められたときですとか行政の内部で情報提供をしたいとかというのが中心になる

のですが、一応、ご自身の発言内容を見た上で修正が必要であれば、こちらのほうにお知らせいただければと思いますのでよろしく申し上げます。

事務局からは以上なのですが、何か皆さまからお願いですとか、お伝えしたいこととかがありましたらこの場でお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。特にないでしょうか。それでは、本日も予定しておりました意見交換等の内容はこれで全て終了です。長時間にわたりましたありがとうございました。頂いたご意見、コメント等を踏まえながら区役所としてもスピード感を持って対応していきたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

(終了)